

# 輝かしい未来へ向けた施策を

令和2年3月議会が2月21日～3月19日に開かれ、令和2年度予算などが審議されました。同議会の冒頭で小泉市長が語った施政方針の概要をお知らせします。



市役所庁舎の外観



施政方針演説をする小泉市長

平成19年1月の市長就任以来「住んでよし働いてよし訪れてよし」の次世代に誇れる空の港まち、生涯を完結できるまちづくりに向けて、常に全力投球で市政運営に取り組んできました。

本年は東京2020オリンピック・パラリンピックが開催され、日本にとって記念すべき年となります。

本市においても「成田空港の更なる機能強化」「国際医療福祉大学

成田病院の開院」「新生成田市場の整備」をはじめとする未来を見据えたまちづくりを機に、さらなる発展を目指し、市政の各分野で山積する諸課題に対して真正面から取り組む覚悟です。

令和2年度予算は、成田市総合計画「NARITAみらいプラン」第2期基本計画の初年度となることから、将来都市像の実現に向けて新たな4年間の目標や取り組み方針を掲げ、引き続き「若者

や子育て世代に魅力のあるまちづくり」「医療・福祉の充実したまちづくり」「空港と共に発展するまちづくり」の3つの方向性に基づいた施策を着実に推進するため、限られた財源を重点的かつ効率的に配分しました。

一般会計は対前年度比3・6パーセント増の628億円、水道事業会計などを含む特別会計を加えた全体は2・5パーセント減の約957億円となりました。

## 主要な施策への取り組み

成田空港については、7月から開催される東京2020オリンピック・パラリンピックの受け入れ態勢の整備や、激化するアジアの空港間競争に勝ち抜いていく必

要があることから、昨年10月には夜間運用時間が1時間延長され、A滑走路の運用時間が午前0時までとなり、大きな転換点を迎えました。

さらに昨年11月には、国土交通省が成田空港の基本計画を53年ぶりに改定し、1月に航空法に基づく成田空港の施設変更が許可されたことから、滑走路などの施設整備は今後さらに加速するものと考えています。

一方で、機能強化と騒音地域にお住まいの皆さまの生活環境の保全、空港周辺地域の活性化は一体的なものとして進めていかなければならないと認識しています。引き続き関係機関と連携しながら課題の解決に向け全力で取り組んでいきます。

国際医療福祉大学成田病院については、642の病床と41の診療科を備え、日本最大級の人間ドックセンターを併設するなど、地域医療と高度医療を担う医療機関として\*4月に開院します。

\*現在の逼迫した国内の医療状況を鑑み、3月16日に前倒しで開院となりました。

国際医療福祉大学成田キャンパスでは、3月に看護学部・保健医療学部から初めての卒業生が輩出されました。成田病院をはじめとした地域の医療機関において、看護師や理学療法士をはじめとする医療福祉分野の専門職としての活躍が期待されます。

また、4月から保健医療学部放射線・情報科学科が設置され、県内で初めての診療放射線技師の養成機関が誕生します。同大学との連携・協力をさらに強化し、成田病院を核とした将来的な医療産業集積についても調査・研究を継続していきます。

卸売市場の移転再整備では、市民の皆さまに安全・安心な生鮮食料品などを安定的に供給する従来の市場機能に加え、衛生管理の整った加工施設や、農水産物の効率的な輸出を可能とするワンストップ輸出拠点機能を備えます。日本初の卸売市場として、令和3年夏頃の開場を目指し建築工事をスタートしたところです。

また、新生成田市場はインバウンド需要の獲得と、日本の食文化を世界に発信する拠点施設としての役割も担うことから、東京2020オリンピック・パラリンピック開催期間中に本市を訪れる国内外の観光客に対し、新生成田市場の取り組みや地域の農水産物に関する情報を発信していきます。スポーツの振興については、大谷津運動公園野球場をはじめ、中台運動公園水泳プール、遠山スポーツ広場の改修工事を順次終え施設の供用を再開します。

また、本市で行われる東京2020オリンピックの聖火リレー実施を皮切りに、アメリカ陸上チームやアイルランドパラリンピックチームの事前キャンプの受け入れを市民と一体となって歓迎し、これらのチームを応援するためのツアーなどを計画していきます。

さらに、国内外から訪れる多くの観光客や観戦客に対しても、交通案内や観光案内などの「おもてなし」を行う都市ボランティアを配置し、本市の観光PRに努めていきます。

スポーツ大会の誘致については5月にパラスポーツの障がい者立位テニス世界大会を、8月に王貞治氏が理事長を務める世界少年野球推進財団と共催で「世界少年野球大会 Girls Baseball Clinics



アメリカ陸上チームが指導する陸上クリニック

## 安全・安心でいるおのほろ生活環境をつくる

2020成田大会を開催し、共生社会ホストタウンの実現やスポーツツーリズムの推進にも積極的に取り組んでいきます。

昨年台風15号・19号、10月25日の大雨では、暴風や大雨の影響により市内の広範囲で被害が発生しました。特に台風15号では大規模な停電被害が発生し、電力会社による復旧作業が大幅に遅れ、停電が長期化する事態となりました。

今後も関係機関との連携、協力体制の強化を図り、市民生活への影響が最小限となるよう取り組んでいきます。

また、災害時には災害情報などの迅速な伝達が必要となることから、防災行政無線固定系親局の更新を行い、さらなる情報伝達体制の整備に努めていきます。

消防体制については、市民の皆さまの安全・安心を確保するため消防本部と消防団の体制強化が重要です。災害時におけるドローンなどを活用した情報収集を行い、消防装備や施設の充実を図り、東京2020オリンピック・パラリンピック開催時のテロ災害などへの対応を強化します。

ごみ収集事業では、市民サービ

スツーリズムの推進にも積極的に取り組んでいきます。



台風15号の影響で倒れた電柱

スの向上とごみの減量化・再資源化を図るため、現在月2回としているプラスチック製容器包装の収集回数を週1回へと変更し、ごみの適正分別の徹底を図っていきます。

水道事業では、安全・安心な水道水を安定供給できる災害に強い水道を構築するため、引き続き基幹施設である並木町配水場の耐震化を含めた改修事業や、管路の耐震化を積極的に進めています。下水道事業については、令和元

年度から企業会計方式に移行しており、継続的かつ健全な事業経営に努めています。また、近年の局的豪雨により道路冠水が発生し

ていることから、計画的に雨水管渠などの築造を行い、老朽化した下水道施設の長寿命化を推進していきます。

## 健康で笑顔あふれ、共に支え合う社会をつくる

保育園の待機児童対策では、4月に認可保育園3園、小規模保育事業所1園が開園し、新たに214人の保育の受け皿が確保され、待機児童の解消に向けて大きく前進すると期待しています。

また、幼稚園から本市初の幼児連携型認定こども園への移行を予定している法人や、開園を予定している小規模保育事業者に対して施設整備に係る補助を行うなど、

受け皿の拡充を図っていきます。

さらに、昨年10月から実施している幼児教育・保育の無償化により子育て世代の経済的負担の軽減を図るほか、地域型保育事業所などの健全な運営に対する支援や保育士の処遇改善を行うなど、保育環境の充実に向けていきます。

児童ホームについては、令和3年4月に開所を予定している大栄第一・第二児童ホーム(仮称)の整備を進めるほか、八生児童ホームの建設に係る実施設計を行うなど放課後における留守家庭児童の健全育成を支援していきます。

母子保健については、助産師などが育児支援や相談を行う訪問型の産後ケア事業を実施していますが、4月からは新たに宿泊型の事業を開始し、子育て世代への支援の充実を図っていきます。

介護保険事業では、高齢者の生活支援等サービスの提供体制を構築するため、第2層生活支援コー

ディネーターを成田ニュータウン地区に配置し、地域に必要なサービスの創出や担い手の養成などに

## 地域文化を生かし、未来を担う心豊かな人材を育む

学校教育に関する施策を総合的に推進するため、成田市学校教育振興基本計画「輝くみらいNAR I T A教育プラン」を基に、子どもたちの個々の能力を伸ばし、将来に夢と希望を持って、自分の進むべき道を切り開く力を育む教育を推進します。

また、多忙を極める教職員の負担軽減を図り、教育活動を持続的に行うことができるよう働き方改革を進め、学校支援の充実に取り組みます。

小学校では4月、中学校では令和3年度から、新学習指導要領の完全実施に向けて指導体制のさらなる充実を図ります。

本市ではすでに全国に先駆けて小学1年生から英語教育を行っていることから、今後これまでに培った英語教育のノウハウを十分に生かし、英語によるコミュニケーション能力の育成をさらに推進していきます。

また、学校の内外でさまざまな

取り組み、地域住民や関係団体などと協働して地域の支え合いの体制づくりを推進していきます。

困難を抱える児童・生徒が安心して学校生活を過ごせるよう、新たにスクールソーシャルワーカーを配置し、一人一人の状況に応じたきめ細かな支援を行います。

令和3年の開校を目標に進めている大栄地区の小中一貫教育校については、引き続き校舎新築工事などを行っていきます。また、三里塚小学校においては中央棟・増築棟の大規模改造工事を実施していきます。

さらに、教育環境の向上を図るため、全ての中学校の特別教室に空調設備を整備していきます。学校給食施設整備については、親子方式による共同調理場の整備を順次進めており、新年度から美郷台小学校学校給食共同調理場の



コミュニケーション重視の英語教育

運用を開始するとともに、平成小学校に共同調理場の整備を進めていきます。

文化芸術の振興では、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に合わせ、事前キャンプに由来するアメリカやアイルランドにゆかりのある音楽や文化を紹介するイベントを行います。

また、市川海老蔵丈の「市川團十郎白猿」襲名に合わせ、市川團十郎展を開催するなど、日本の文化と本市の魅力を広く発信していきます。

## 空港の機能を最大限に生かし、魅力的な活気あふれる都市をつくる

成田空港の更なる機能強化に伴う夜間飛行制限の変更については

騒音対策としてA滑走路の騒音特法防止地区における寝室への内窓設



安心して子どもを預けられる環境

置工事の助成事業をすでに開始しています。また、B滑走路の防止地区やA・B滑走路の防止地区に挟まれた谷間地域についても、引き続き生活環境の保全に取り組んでいきます。

都市基盤整備については、成田空港の更なる機能強化や国際医療福祉大学成田病院を核とした医療関連産業の集積など、新たな開発需要や人口増加に適切に対応していくため、吉倉地区周辺の新たなまちづくりの実現に向けて、合意形成に努めます。

道路整備については、成田空港周辺における新たなまちづくりを見据え、圏央道や北千葉道路の整備をはじめ、県道成田小見川鹿島港線の4車線化について、国・県に対して早期完成に向けた要望活動を行い、これらの広域道路ネットワークと連携した計画的な道路

訪日外国人旅行者数が3、000万人を超え、さらなる増加が見込まれていることから、トランジット&ステイプログラム事業の充実や、都市ボランティアによる観光案内を行うなど、訪日外国人



圏央道開通予定の大栄JCT

整備に努めていきます。

建築行為の許認可などを行う特定行政庁への移行については、4月から用途・規模を問わず、全ての建築物などに関する事務処理や建築相談などを行い、地域に密着したきめ細かい建築行政の運営を推進していきます。

## 活力ある産業を育て、にぎわいや活気を生み出すまちをつくる

訪日外国人旅行者数が3、000

旅行者の来成を促進します。また、共生社会ホストタウンの取り組みとして、本市独自の補助制度により、市内のホテルや旅館などのバリアフリー化を積極的に推進するなど、観光客の受け入れ

環境の整備を図っていきます。

さらに「成田市御案内人市川海老蔵プロジェクト」や「成田太鼓祭」「成田祇園祭」「成田伝統芸能まつり」「成田弦まつり」といった成田の観光資源を活用した本市の魅力発信に取り組んでいきます。

農業については、地域農業の問題を集落で解決できるような組織の育成を図り、農地中間管理機構を活用して農地の集積と規模拡大を促進します。

また、安定生産や品質向上を図

## 市民サービスを充実させ、持続可能な自治体運営を行う

昨年4月に改正された入国管理法の施行などにより、秋には日常生活上の相談や情報伝達について多言語で対応する総合相談窓口を開設し、外国人住民の生活支援をするとともに、多文化共生指針を策定していきます。

広報活動では、広報なりたをはじめ、市ホームページやフェイスブック、インスタグラムなどのさまざまな媒体を活用し、利用者のニーズに合わせた情報提供に努めていきます。また、全市普及を目指しているケーブルテレビについては、騒音地域での幹線整備が完

るための機械・施設の導入に対する補助や、新規就農者を支援するなど、安定した農業経営に向けた取り組みを行っていきます。

さらに、農産物の安全性を確保し、より良い農業経営の実現に向けて、GAPギャップ（農業生産工程管理）に取り組むことの重要性や認証制度の周知・理解を促進していきます。卸売市場を活用した販路拡大を促進するとともに、農産物のブランド化、6次産業化に向けた取り組みを積極的に支援します。

了することから、今後はケーブルテレビ未視聴地域の施設整備に取り組んでいきます。

窓口サービス業務の充実については、住民票や課税証明書などの各種証明書発行に係る手数料や急病診療所における診療費の納付について、各種電子マネーやクレジットカードでの支払いを可能とし、市民の利便性向上を図っていきます。

本年は「平和の祭典」である東京2020オリンピック・パラリンピックが開催され、トップアスリートの活躍により日本中に大き

な感動を与えてくれるものと確信しています。

本市出身のオリンピック代表選手の有功候補としては、体操の橋本大輝さんや女子ボクシングの\*並木月海つきみさんなどのアスリートの名前が挙がっています。

私も選手たちに負けないよう、わがふるさと成田が夢や希望に満ちあふれた輝かしい未来となるように「住んでよし働いてよし訪れてよし」の次世代に誇れる空の港まち、生涯を完結できるまちづくりに向け、たゆまぬ努力と情熱により市民の皆さまのニーズや課題を的確に捉え、既存の枠にとらわれない柔軟な発想で、将来を見据えた施策に果敢に取り組んでいきます。

### \*並木月海選手が日本代表に内定

並木月海選手（自衛隊）は、3月9日に行われた2020東京五輪アジア・オセアニア予選（ボクシング・フライ級）で準優勝し、日本代表に内定しました。日本で開催される記念すべき大会で並木選手が活躍できるよう、皆さんの応援をよろしくお願いいたします。